

2年 図画工作科学学習指導案

授業者 渡邊 翔太

1. 題材名 かさねて すかして みえてくる (A表現(1)ア造形遊び)

2. 題材の目標

○透明ちよがみやカラーセロハンなどを重ねながら、材と材が組み合わせさったり透かししたりして生まれる色や表現などの特徴を理解し、主題に合わせた表し方を工夫して、即興・創発的に主題を表現することができる。

〔知識及び技能〕

○透明ちよがみやカラーセロハンなどが組み合わせることで生まれる表現のよさや表したいこと、表し方について考え、主題を即興・創発的に発想したり構想したりしながら、自分の見方や感じ方を深める。

〔思考力、判断力、表現力等〕

○透明ちよがみやカラーセロハンなどが組み合わせることで生まれる表現の魅力に触れながら即興的に表現したり、主題にそって創発的に表現したりしている。

〔学びに向かう力、人間性等〕

3. 子どもと題材

本学級の子どもは、工作活動に高い興味をもち、図工が好きだと感じている子が多い。また、何かをつくり出すことに楽しみを感じており、教室では段ボールや割りばしなどを使った工作が日常的に行われている。段ボールでラーメン屋を作った子がいると面白さを感じ、学級のみんなでより協力しながらより本物の店にしようとしていたり、スパイごっこでは、割りばしを組み合わせ剣などの武器を作ったりしていた。より本物のようなものをつくる楽しさを十分に感じているからこそ、図工が楽しいと感じている子どもが多いのだろう。一方で、「しみこませると…」の題材では、折ったティッシュペーパーに水性インクを染み込ませ出来上がるにじみや色の染み込み具合で異なる表現の面白さを感じ、リアルなものを描くのではなく、水玉模様の染み込みや塗り潰すことで生まれる表現に面白さを見出していた。子どもは具体的なものを描いたり、工作したりすることだけでなく、抽象的なものへの美しさを感じる入り口に立っているよう感じた。

本題材で使用する材は、透明ちよがみである。これは重ねる枚数や重ね方で色が変わるだけでなく、材の直線部分から生まれる陰影や折り紙のように折り平面的に表現することで生まれる透過割合の違いによる表現の違いが生まれやすい材である。重なり方や透け方を何度も試し表現していくことで主題を見出しながら、抽象的な表現のよさを感じることができる材だと考えている。子どもが、即興的に材の色の組み合わせ方や重ね方を考え、創発的に主題を見出していく過程は、子どもにとって魅力的な活動になるはずである。また、本題材では、異なる大きさ（通常の大きさと4分の1の大きさ）、異なる色（原色3色以外の色）の透明ちよがみを扱う。そうすることで、大きさの違いから生まれる表現を考えたり、透明硬質シートの中で、材をつなげたり、重ねたりして表現していき、そこに生まれる形を自分なりに様々なものに見立てたり、様々な形が組み合わせる抽象的な表現の美しさや正方形のみで構成される表現のよさを感じたりしていくだろう。

抽象的な表現に触れることで、これまで目にしていたものの形や色などに目を向けたり、木材の木目やシミなどがつくり出す表現などの、模様のような形の組み合わせや表現と感じていなかった抽象的なものに興味や関心を示したりしていくことにつながると感じている。また、図工が好きな2年1組の子どもがこの材に触れ、それぞれの造形的な視点を働かせながら、造形遊びを楽しみ、また他者の造形的な視点にふれることはその子の造形的な視点を磨いていくことにもつながるだろう。

本題材を通して、その子が見える世界は、今まで見ていた世界とは異なるだろう。色の組み合わせる

よさや見えていなかった形が見えてくるようになり、より彩り豊かな世界と感じるようになるだろう。それは、その子の造形的な視点を磨いていくことにつながり、その子を取りまく世界がこれまでよりも魅力的なものに囲まれていたことに気付くだろう。ひいては、その子自身の人生における楽しさの深みがまし、生き方が豊かになっていくことを願っている。

4. 本題材における『その子らしく学ぶ』～「心の動きを伴う経験によってその子に還るもの」～

本学級の子どもは、日常的に工作にふれあっており、その中で試行錯誤しながら自分のつくりたいものをつくり出している。また、仲間のつくっているもののよさを見出し、一緒に活動する中で工作を楽しんでいるように感じている子どももいた。

本題材で扱う透明ちよがみは透明でありながら、セロハンより少し硬く、組み合わせたり、手で割いたりすることが子どもでも容易にできるものである。また透明であるからこそ、組み合わせることで変色したり、正方形を形づくる線が影となり抽象的な表現に触れたりしやすくなるものでもある。

そこで、第①時には、3色の透明ちよがみ（4分の1の大きさの赤・青・黄）に出合う。透過性を見出すと、これまでの経験からカラーセロハンを扱うように、レンズのようにして透かした先を見たり、ちよがみを重ねてみたりするだろう。そこで、折り紙のような正方形であること、また少し硬さがあることに気付いた子はちよがみを使用して、折り紙を始めようとする子もいるかもしれない。そこで、立体ではなく、平面での楽しさを味わえるように A4 サイズ硬質透明ケースに出合う。ちよがみを安定して挟めることまた、挟んだ状態で持ち上げて透かすこともできることを知った子どもは、色の組み合わせを楽しみながら何度も挟むことを繰り返すだろう。即興的に表現する中で、「こんな色できた！」と色ができていくことに楽しさを感じる子もいる。折り紙のように平面的に折ったものを挟み、「〇〇みたい」と見立てて、表現したりする子もいるだろう。その際に、すべてを重ねるのではなく、ずらして重ねる子の表現にふれた子は、抽象的な表現へ向かう糸口にしていくかもしれない。子どもが様々な試したことで気付いたことを「かさねてみたこと」「すかしてみたこと」として板書に分類し、できることの種類を明確にしていく。その上で、テーマである「かさねて すかして みえてくる」を知ることで自分がしてみたい表現に対しておもいを膨らませていくだろう。ここで、「こんなのできたけど、みんなは何に見える？」と教師の表現に出合う。図工室の中央におかれた台の上の例を四方から見ること、「山みたいに見える」「ぶどうみたい」などそれぞれの感じる表現で考えを述べる。その中で、その子の視点で見えているものすべてが、その子にとって価値あるものであると感じていくだろう。その後、自分の透明ちよがみを使って様々な表現を試しながら、みえるものを探す中で、色の少なさに物足りなさを感じる子もいるだろう。

第②時には、第①時で感じた色の少なさを全体で共有し、ちよがみの色が6色（透明・桃・紫・緑・黄緑・橙）増えることを知る。第①時では生まれなかった色の重なり方から、新たな色の発見や、より多くの枚数と色を合わせた表現を楽しむだろう。また、ここで、題材の最初に提示した3色の通常の大さ（15 cm×15 cm）の透明ちよがみに出合う。大きい透明ちよがみに出合うことで、重ねること、つなげることに對して、「やりたい」というおもいが膨らんでいくだろう。大きさが違うことを生かして、生まれる形や色の重ね具合を味わいながら「こんなのできた！」と伝えたい気持ちを高めていくだろう。様々な「できた！」というおもいとふれ合いながら、「こんなこともできそうだ！」と創発的に表現し、重ねる大きさの違いから生まれる楽しさを味わっていく。その過程で何がいいなと思ったのかを問いつことで、その子自身の造形的な視点を明確にしていくだけでなく、教師がその子の造形的な視点を捉えていく。また、自分だけでなく、仲間の表現にふれることで主題を見出すこともあるだろう。一方で、A4 サイズの透明硬質ケースに挟むことで表現をしていくが、そのサイズでは表現する場が狭いというおもいを感じる子もいるだろう。「もっとこうしたい」「もっと〇〇だったらいいのにな」というおもいをもった状態で次時を迎える。

第③時には、A3 サイズの硬質透明ケースを使用する。サイズが大きくなることで第②時で感じていた狭さが払拭され、「これができそうだ！」というおもいをより表現しやすくなるだろう。また、自然と A3

サイズがこれまで使用していたものの倍の大きさであることに気付くと、2枚をつなげることで、A3 サイズに挟んだものと似たような表現ができることを考える子もいるだろう。また、つなげることに気付くと友達とつなげるという新たな表現にも目を向けるようになる子も現れるだろう。そうする中で、子どもは自然と創発的な表現をし、その際に透かすことにも目を向けていくことで、作品を置く場所などにも考えを巡らせるだろう。中には、窓際に置き太陽の光を使用したり、蛍光灯などの明かりを利用したりする子も出てくるかもしれない。その際に、透け方を確かめることができるように、第1理科室を暗室として活用し、光源台（段ボールでライトを囲み光が上に逃げていくもの）を使って、透け具合の違いを感じ取れるようにする。光源の違いで生まれる表現の違いも感じることで、自分の主題に合う光源を見つけ選んでいくだろう。

第④⑤時には、これまで自分が表現してきた活動を仲間に紹介する場を設定し、そこで、題材終盤にやりたいことに対して、まずはおもいっきり取り組めるようにする。自分が見えた形をどのように光と関わらせて見せるのか、また、サイズをどうするのかなど主題を明確にしながら表現を楽しんでいく。第⑤時にはそれまでの活動を写真として残しているため、それをもとに自分の「かさねて すかして みえてくる」で行ってきたことを仲間に紹介していく。仲間の表現を見る中で、「僕は〇〇に見える」「ここだけ見たら〇〇みたい」などと自分のおもったことを自然と伝えていくだろう。そこで、見え方の違いから「そんな見方もあるのか」と感じた子どもは表現の意味を広げていく。

本題材を通して、表現を即興的にくり返したり、創発的な表現をしたりしていくプロセスを繰り返し何度も行う。その子の即興的な表現から創発的な表現に変容する過程には「心の動きを伴う経験」が存在するだろう。その中で、その子の中に、抽象的な表現の面白さや、毎回変わる表現の面白さを見出していく。また、「何となくいいとおもう」という自分なりのよさを色や形などに置き換えて考えることができるようになるだろう。こうした経験は、これまで見えていなかった抽象的な表現のよさやまったく同じ表現にはならない表現の面白さを感じるようになる。それは、その子の造形的な視点を磨いていくことになり、ひいてはその子の人生をより豊かにしていくことにつながるだろう。

5. 題材構想（全⑤時間扱い／本時は第③時）

＜教師の投げかけ＞

子どもの表れ

最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

①

＜これなにかな？＞

- ・透明で色付きの紙だ
- ・知ってる！カラーセロハンでしょ
- ・せいほうけいだから、おりがみみたいにできそう
- ・何か折ってみる！ ・これ使ったことある

- 〔透かす〕
- ・これ、目の所にもっていくと目が色付きに見えるよ
 - ・この紙通して向こう側を見ると、その色に見えるよ

- 〔重ねる〕
- ・重ねると色が変わって見える
 - ・オレンジ色できたよ
 - ・3枚重ねたらこんな色になった

＜「かさねて すかして 」試してみよう＞

- 〔透かす〕
- ・この色で天井を見ると電気がその色に見えるよ
 - ・これを通してみると空がその色に見える

- 〔重ねる〕
- ・持っているちよがみ全部重ねたら、なんか黒っぽくなった
 - ・緑作ろうとしたけど、なんか違う緑ができたよ。重ねても違う色になるのかな

- 4分の1の大きさの3色（赤・青・黄色）の材を渡して、どんなものなか、どんなことができるのかを確かめていけるようにする。
- ある程度試した中で、気付いたことを共有する時間を設けて、〔透かしたこと〕〔重ねたこと〕で分類して板書していく。
- A4の硬質透明ケースを配布して、それにちよがみをはさむことで固定できることを確認する。

＜これ何に見える？＞

- ・山みたい ・ぶどうに見える
- ・ぶどうならもっとたくさんあったほうがぶどうばいよ ・恐竜に見える

＜「かさねて すかして 見えてくる」自分がつくったものでみえてきたものを記録しておこう＞

- ・私は花みたい見えるよ
- ・なんか夜の空みたいになった
- ・色がもっとないかな
- ・赤い花がたくさんある花畑みたいになったよ

② ＜色が増えたよ！「かさねて すかして 見えてくる」何ができるかな＞

- ・すごい！！こんなにたくさん色がある！
- ・重ねたらなんか黒色みたいになったよ
- ・スイミーみたいに目の部分を黒くしたいから全部の色重ねよう
- ・これもっとカラフルな花畑ができたよ
- ・カラフルな恐竜みたいにできそう

＜大きい透明ちよがみもあるよ。どんなことできるかな。＞

- ・大きいちよがみに小さいちよがみを重ねるとなんかおもしろい
- ・大きいのを重ねて緑の下にして、その上に花にしようとしたけど、これだと色が変わっちゃうな
- ・大きい3枚並べるのは無理かな。もっと大きい挟むやつないかな
- ・大きいやつに回りに小さいの並べたら花みたいになった
- ・ナスができたよ
- ・友達といっしょにつなげれば大きいのも何枚かできるよ

③ （本時） ＜大きい挟むものもあるよ。これも使ってみよう！＞

- ・やっと花ができる！大きな花にしてみたよ
- ・ちいさいのたくさんと大きなの並べてみたらなんか模様みたい
- ・先生！分かった！大きいやつって小さいやつ2枚だから並べたらもっと大きくなる！
- ・大きいのに、小さいやつ重ねると場所で色が変わって見えるよ。
- ・外の光で透かすときれいなガラスのやつ（ステンドグラス）みたいできれい
- ・床にもきれいな色が写っている
- ・下から光当ててみたい。当ててみよう！
- ・見て！これめっちゃきれいだよ

○教師がつくった見本を見せて何に見えるか考える場を設定する。

○タブレットを活用して、自分の行ったことを記録するように声掛けをする。

○何度もつくり替えられるよさを伝え、繰り返しできるようにかわる。

○材から生まれる表現の可能性を感じた発言を拾いながら全体にかかわる。

○追加で6色（透明・桃・紫・緑・黄緑・橙）の色を渡し、子どものやりたいことの幅が広がるようにかわる。

○表現の幅が広がるように、向きや見え方について見つめ直せるようにかかわる。

○色が増えたことでできた表現の幅を全体にも広めるように、適宜全体へのかかわりをもつ。

○大きなちよがみを渡し、子どもが行ったことを適宜共有し、様々な表現にふれられるようにする。

○A3の硬質透明カードケースを提示する。

○下から光源を当てられる台（砂絵用）を活用し、光源を当てて透け具合を確認することができる場を用意する。

④⑤ ＜「かさねて すかして みえるもの」最後の時間だよ。今日は最後にこれまでの見えたものを紹介しよう。＞

- ・俺は、恐竜みたいに見えるやつをつくった！
- ・下から光当てるより、太陽の光で見た方がきれいな感じに見える
- ・床の写ったやつもきれいだよ
- ・夜の星みたいにやったのがやっぱりいいな
- ・スイミーみたいに海の中になった

＜「かさねて すかして みえるもの」これまでの自分の見えてきたことを紹介しよう。＞

- ・僕は、最初いろいろな模様をつくったけど、色の種類が増えたから恐竜みたいなのをつくったよ。これを通して見ると、どこでも恐竜がいるようにみえるんだ。
- ・わたしは、最初、いろんな色をつくって、オレンジがきれいだなと思った。それでいろいろな色がきたら、お花畑にしてみた。2つを重ねるとお花畑の色も変わる不思議なお花畑になってるんだよ。
- ・適当に重ねても光を当てると面白い模様が、地面に移るんだよね。四角の折り紙なのに三角みたいになったりして面白かった。
- ・大きいのと小さいのを一緒に使うとちょっとだけ色も変わるところができるし、大きいサイズのやつを使うといろんなことができた。
- ・友達と挟むやつを重ねると自分がつくったのと違う感じになって面白かった。

○下から光源を当てられる台(砂絵用)を活用し、光源を当てて透け具合を確かめることができる場を用意する。

○授業終盤に、これまで活動してきたことを想起し、「すてき」「大発見」などおもしろい高まったときをふり返りながら紹介できるように、ロイロノートの活用をしていく。